

精神医学的知識の普及と医療専門家の役割に関する研究

—精神科医に対するアンケート調査から—

埼玉大学 佐藤雅浩

1 目的

本報告の目的は、全国の精神科医を対象としたアンケート調査の結果から、医師たちが精神疾患の流行、あるいは精神疾患にカテゴライズされる人々の増加という現象をどのように捉えているのかを明らかにし、精神医学的知識の普及とその帰結に関する医療専門家の役割について考察することにある。1990年代の後半以降、日本では「うつ」に代表される気分障害患者数の増加が指摘されており、様々な領域でメンタルヘルス施策への関心も高まっている。その一方で、ここ数年は「うつ」概念の混乱に対して専門家の側からも批判的な言及がなされるようになっており、例えばマスメディアで注目された「新型うつ」という概念に対しては、厳しい評価が下されるようになっている。哲学者の I. Hacking は、特定の時代・地域において注目を集める精神疾患のことを **transient mental illness** と呼び、これらの疾患に分類される人々が増減するメカニズムを **looping effects** という概念から捉えようとした (Hacking 1998, 1999)。しかし彼の議論では、医学的な分類とその対象とされる人々の相互作用に着目するあまり、両者に大きな影響を及ぼすと思われる医療専門家の認識や役割について、体系的な考察が少ないように思われる。そこで本報告では、現代日本における「うつ」の増加を事例として、医師たちがこの現象に対してどのような認識を抱いているのかを明らかにし、Hacking のいう **looping effects** の過程において、医療専門家がどのような役割を果たしているのかについて考察する。

2 方法

全国の精神科医 173 名を対象に実施したアンケート調査によって得られたデータをもとに、医師たちの「うつ」の増加原因に関する認識、新しい「うつ」概念の有効性に対する認識、投薬治療以外の治療法の実施実態、製薬企業と精神医療の関係性に対する意識、マスメディアにおける「うつ」に関する情報の有効性と限界への認識などを明らかにし、これら医療者の認識が、「うつ」の増加について論じている既存の専門家言説とどのように関連しているのかを考察した。

3 結果

その結果、調査から明らかにされた「うつ」の増加原因に対する医療者側の認識は、既存の「うつ」の増加に関する医療者向けの言説と類似点が多くみられ、診断体系の変更や精神科クリニックの増加、製薬企業による啓発広告の影響等により、以前は「うつ」に分類されなかった人々が患者としてカテゴライズされているという原因論が広く共有されていることがわかった。

4 結論

上記の知見からわかるように、現在「うつ」に分類されている人々の一部に対しては、医療者の側からも診断の妥当性について疑念が抱かれており、このことが今後は「うつ」概念の存続にとってネガティブな効果を与える可能性が示唆された。

文献

Hacking, I., 1998, *Mad Travelers: Reflections on the Reality of Transient Mental Illnesses*, University of Virginia Press. (=2017, 江口重幸他訳『マッド・トラベラーズ——ある精神疾患の誕生と消滅』岩波書店.)

———, 1999, *The Social Construction of What?*, Harvard University Press. (=2006, 出口康夫・久米暁訳『何が社会的に構成されるのか』岩波書店.)